saveMLAK プロジェクト
2013/ 4/10 発行

saveMLAK ニュースレター

第 15 号

saveMLAK としての 3 年目を迎えて メンバーからのメッセージ

帰宅困難者の方々と一夜を過ごし、皆さんを送り出しての帰宅途中に出会ったのが savemuseum でした。いま、少しずつですが、復興に向かっている施設の元気な活動情報を、saveMLAK のサイトに書き込めることが嬉しいです。
阿児雄之（東京工業大学博物館）

私のファンド係としての活動は 2011 年 5 月に郵便局・銀行の口座を作るべく谷合さんと奔走したときから数えて、3 年目の会計年度を迎えました。saveMLAK が担う「次の役割」が、より継続的、かつ、よりスマートな復興支援の形につながるものにできるよう願っています。
糸野 泰輔（大阪樟蔭女子大学図書館）

学校図書館に関して，自分がどれだけの支援ができたか全く自信が持てません。ただし「本を送りません宣言」の前文のように，その時々に応じた支援を考え，手を動かせるところは動かしていく（たとえば情報支援の必要性を訴える）ということを今後も心がけて参りたいと思います。
今井福司

あのときから 2 年。忘れている場合ではないと思う。なぜなら、次に被災者となるのは私たちかもしれないのだから。「人のために」と思うことは必ずしも必要ありません。「自分のために」「自分の大切な人のために」。そんな思いで忘れず動いていきましょう。
岡本真（saveMLAK プロジェクトリーダー）

大きな働きはできなくても、遠隔地（岡山）にも参加者がいるってだけでも、なにがしかのプラスになるのでは？と思い、活動に加わっています。そんな中で、東北や全国各地の方とのつながりが生まれたのはうれしいことでした。
久戸瀬 瑞季（岡山県立図書館）

はじめは自分にできることがあるのかな、と手を出しかねていた saveMLAK。でも細く長く、できることがある時にやればいい、とわかったら気が楽になりました。細く長く、震災を忘れないよう関わっていきます。
小村愛美（神戸大学附属図書館）

エル・ライブラリーは世界中の心ある人々によって支えられている図書館です。助けられたら助ける。支え合う社会をめざして、これからも頑張ります。震災を忘れない。次の災害に備える。記録と記憶の場としてのアーカイブズの役目を果たします。
谷合佳代子（エル・ライブラリー<大阪産業労働資料館>館長)

現地での救援活動に参加したくても、今の自分は足手纏いとなるだけ・・・。そんな私にもできるかも、の支援だったのが saveMLAK。この活動を通して、多く の大切な出会いがありました。被災地にとってはまだまだ被災は進行中。微力ながら、アーカイブズの情報提供を続けていきたいです。
筒井　弥生

とあるきっかけで参加した saveMLAK。地震や津波を経験していないのに、何ができるのか悩んだこともあった。でも今は、未来へのメッセージとしてあの時のことをインターネットという場所で、少しでも残せて行けたらと思う。
冨澤 美典（saveMLAK）

山あり谷ありの 2 年でしたが、まさに塞翁が馬。これからもきっと山あり谷ありだと思いますが、笑顔で続けられるうちは続けたいと思います。笑顔が少なくなったらちょっと立ち止まるのもまた saveMLAK の良さではないでしょうか。なせば成るの精神で。Festina lente.
山村真紀（ミュージアム・サービス研究所）

学校図書館が、学校図書館界の中だけで完結していてはいけない。社会の中で何ができるのかを考えなければ。saveMLAK のおかげで、そのことに気付かされたのでした。
横山 寿美代（杉並区立久我山小学校図書館）

MLAK くんと一緒に、デザイナーとしてできる小さなことをこれからも頑張っていきます。
渡辺ゆきの（kumori）

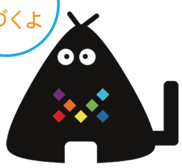
東日本大震災復興支援活動第 2 回報告会

霞が関の「民設民営公民館」ナレッジスクエアでは、中央省庁の官僚、NPO リーダー、企業の CSR 関係者等によるランチミーティングを開いてきました。東日本大震災以降は、被災地の復興支援に向けた各省の政策、NPO や企業の取組の情報交換の場となってきました。

３月８日、復興支援の現状を共有する目的で、昨年に引き続きこれまでの取組を広く共有し、支援を継続する意志を確認するための報告会が開かれました。鈴木寛元文部科学副大臣と社団法人 RCF 復興支援チーム代表理事の藤沢烈さんの対談に始まり、官民合わせて１０人の発表者がそれぞれの立場から報告を行いました。

その中で神代から saveMLAK の現状と課題について紹介してきました。報告会には約５０人が集まり、会合後の交流会も含め、活発な意見交換が行われました。詳細は http://www.kk2.ne.jp/seminarevent/sem_spc43.html からどうぞ。
【神代　浩】

次ページへ つづくよ



※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません。

北海道で saveMLAK の活動を紹介

東日本大震災発生から、ちょうど 2 年となる 2013 年 3 月 11 日（月）に北海道文化財保護協会主催の「〜サッポロビール協賛〜 第 1 回文化財保護活動支援チャリティ講演会＆交流の夕べ」が開催されました。この講演会にて、saveMLAK の活動を紹介する機会をえることができましたので、「saveMLAK 社会教育・文化施設の被災情報集約から復興支援へ」と題し、お話してきました。

煉瓦づくりの雰囲気あるサッポロビール博物館に、平日にも関わらず 100 名近い方にお集りいただき、大変有益な時間を過ごすことができました。講演時間を 60 分 いただくことができましたので、saveMLAK の歩みをはじめ、実際の Web site の利活用説明をゆっくりとお伝えできたと思います。北海道にて被害報告のあった施設は 2 件（港文館と様似郷土館）あり、それらの施設情報・被災状況を参加者の皆さんと一緒に見ることで、saveMLAK の活動方針を共有していただけたのではないかと感じています。施設情報を閲覧していく過程で、会場からは大きな反応がありました。その反応をうかがうと、2 年経過した今、初めて北海道でも被害があったと知った方もいらっしゃる模様でした。質疑では、「もっと広報して、多くの人々に協力してもらえるように。」「内容の信頼性、更新の重要性をわかり易く。」「施設も大事だが、収蔵品についてもゆくゆくは集約が必要ではないだろうか。」「自動書架などの被害はどうだったの。」など、多くのご質問と激励の言葉をいただきました。

講演後は、サッポロビールでグラスを交わしながらの交流会。のども潤い、さらに話は盛り上がります。参加してくださった方々は、年配の方が中心でした。インターネットやメールは使えるが、なかなかもう一歩踏み出すことが難しいという印象を受けます。私達の活動は Web が中心ですが、講演会やニュースレターなど、情報の 伝達経路を複数もつことが求められているのではないでしょうか。wiki の編集、プロボノ登録、グッズ購入など、様々な支援方法を講演の中でお話しすることができましたので、これをきっかけに一人でも多くの方が saveMLAK の活動へ参加いただけたらと期待しています。

【文：阿児雄之　写真：細川健裕】

saveMLAK を Art Libraries Journal にて紹介

Art Libraries Journal は ARLIS/UK & Ireland（英 国・アイルランド美術図書館協会）が発行する機関誌です。

今回、日本特集号（Special issue: art documentation in Japan, Vol.38, No.2, 2013）について、ARLIS UK/& Ireland から日本のアート・ドキュメンテーション学会へ打診があり、その中の一記事として「震災と MLA 連携― saveMLAK プロジェクト―（The saveMLAK Project: the Great East Japan Earthquake and new developments in museum library-archive collaboration.)」(pp40 〜 44) が掲載されました。

記事は当初コラムとしての位置づけで短いものでしたが、最終的には Art Libraries Journal の編集者、また翻訳者とのやり取りから、公民館や災害情報と施設情報のギャップ等について大幅に加筆修正がくわえられ、よりわかりやすい形でまとめることができたのではないかと思います。

saveMLAK のロゴであるムラックくんも、'Little MLAK' と英語の愛称をつけてもらいました。

アブストラクト一覧：
http://www.arlis.org.uk/documents/resources/alj_abstract_2013_38_2.pdf

【山村 真紀】

統計 3 月末現在

saveMLAK ML アカウント数	296（-2）	前年比（+9）
総ユニーク Wiki 編集者アカウント数	352（+1）	前年比（+31）
Wiki 編集回数の総計	139,198（+813）	前年比（+26,723）
総 Wiki ページ数	29,102（+160）	前年比（+1,787）
総 Wiki 施設ページ数	25,624（+144）	前年比（+3,281）

3 月の saveMLAK ウィキ！

◆3 月の編集者の方々
（期間：2013/03/01（Fri）– 2013/03/31（Sun））
（順不同、IP アドレス・bot・SPAM による編集除く）

総編集回数：225 回

1 回	Artemismarch, Itono, Kudose		
2 回	Masao, Ta niiyan, Yegusa		
3 回	Llibrary, Soda235		
4 回	Arg, Stkyoshima	14 回	Waterperiod
16 回	Minoritomizawa	30 回	二宮敦
142 回	T.kawakami		

【川上 努】

3 月の出来事と今後の予定

2013 年 3 月 8 日
– 外部イベント： 東日本大震災復興支援活動 第 2 回報告会 〜ランチミーティング@KK2 番外編〜（於・東京 霞が関ナレッジスクエア）
講演： 神代が「被災地の社会教育復興〜 saveMLAK を中心に」と題して発表。

2013 年 3 月 11 日
– 外部イベント： 第 1 回文化財保護活動支援チャリティ講演会＆交流の夕べ（於・札幌市サッポロビール博物館）
発表： 阿児が「社会教育・文化施設の被災情報集約から復興支援へ」と題して発表。

2013 年 4 月 4 日
– 第 25 回 saveMLAK MeetUp を実施。複数拠点（横浜、東京、大阪、福岡）をつないで運営ミーティングを実施。
転載：http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:ニュース より

saveMLAK 会計報告
2013 年 3 月期収支　3 月末現在

《収入》

受取寄付金	1,000	大学図書館交流会参加者
計	1,000	

《支出》

業務委託費	99,225	南三陸町図書館書架寄贈
支払手数料	210	振込手数料
計	99,435	

《3 月末現在　残高》

1,487,973 円　（前月比 -98,435 円）

【ファンド係：赤塚 昌俊】

---------- ○ ----------

編集後記

４月になりました。新年度ですね。１年間を元気にがんばっていきたいものです。　【今号編集担当：久戸瀬 瑞季】

編集発行：saveMLAK プロジェクト
発行日：2013 年 4 月 10 日（第 15 号）
発行所：神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 2F
さくら Works <関内>
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
saveMLAK プロジェクト
E-mail: pr@savemlak.jp

※saveMLAK ニュースレターはクリエイティブ・コモンズライセンスにより提供、配布しています。複写・配布等、自由にしていただいて構いません。